

健康 ぷらざ

耳が遠い —高齢者の難聴—

指導：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科学 教授 喜多村 健

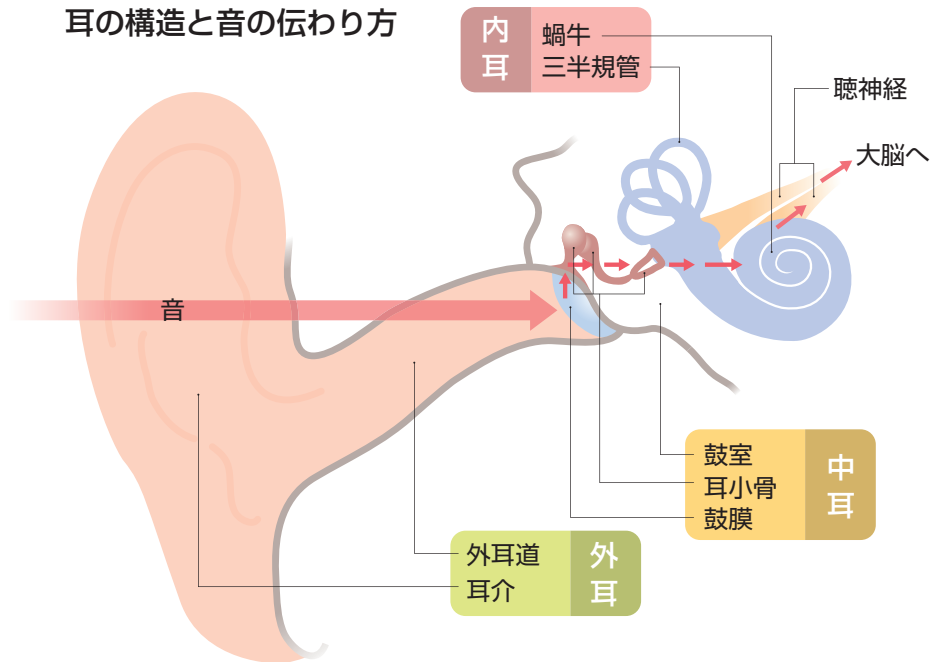
企画：
日本医師会

No. 263

耳が遠いとは

「耳が遠い」すなわち難聴の原因はさまざまです。音は、耳の穴に入ると、鼓膜を振動させ、この振動が中耳にある耳小骨^{じしょうこつ}を経由し、内耳の蝸牛^{かぎゅう}に伝わり、さらに大脳^{だう}の聴覚野に到達し、音として聞こえます。この経路のいずれに障害があっても難聴となりますが、とりわけ内耳の蝸牛の障害による難聴が多く、高齢者の難聴もそれに該当します。

耳の構造と音の伝わり方



高齢者の難聴とハンディキャップ

2005年のわが国の人口構成では、65歳以上の高齢者人口は、全年齢中、約20%を占め2500万人です。そして65歳以上の40%である約1000万人の方が、老化による難聴のコミュニケーション障害を持っています。難聴があると、人との会話が不自由になり、大きなハンディキャップが生じ、生活の質が低下します。

どんな予防・治療がありますか？ また周囲の対応は？

老化による難聴については、有効な予防法は見つかっていません。主な治療法は補聴器をつけることです。その際は、ぜひ医師にご相談ください。



難聴のある人と会話をするときには、声を大きく、ゆっくり話して、できるだけ聞き取りやすいようにしましょう。ちょうど、私たちが外国の言葉を聞くときに、ゆっくり話してもらおうと理解しやすくなるのと同じです。高齢者の難聴は、誰にでも起こり得ます。難聴はハンディキャップであると考えて、イライラしないで会話することが大切です。

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。